

■ ロングトーン

- ・様々なロングトーンのパターンがありますが、時短を意識して「7拍吹いて1拍休む」を紹介します。
- ・小さい音で長く伸ばすのではなく、お腹を意識して、しっかりとした響きを保って練習しましょう。

パターンA (ビギナー向け)



パターンB (慣れてきた人向け)



※半音ずつ2オクターブ上のFまで上がる

- パターンBも安定してきたら、いよいよ全音域のロングトーンを行ってみましょう。思ったより時間はかからないので試してみてください。

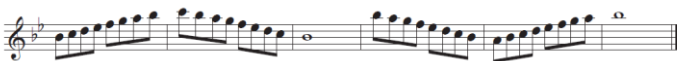
- 音作りの練習では、フルートの伝統的な練習方法で「ソリテ」の練習があります。ぜひ、挑戦してみましょう。

■ スケール

- ・指使いや調性を身体に覚えていきましょう。
- ・メトロノームを使用し、スラーとタンギング両方で練習してみましょう。
- ・少しずつ吹ける調を増やして全調吹けるのが目標です。

練習例(JBCバンドスタディより)

B♭ Major (B dur)



F Major (F dur)



- フルートは指のトレーニングが必要な楽器です。
- ・以前の自分より速いテンポで吹けるように自分自身をレベルアップさせましょう。
- ・可能な限り速いテンポにも挑戦してください。

■ ハーモニクス

- ・同じ指使いのまま息の量を変化させて倍音を出す練習です。
- ・アンブシュアの繊細な変化を身に着けることができます。
- ・息の量では無く、アンブシュアを狭めて息をコントロールして倍音を出せるようにトレーニングしましょう。

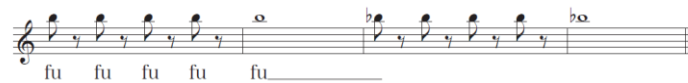


※Cの指使いのまま、息のコントロールで高音を出す

※C以外にもC#(Cis)、Dの音でも試してみましょう

■ エア・アタック

- ・日本語に訳すと「空気で打つ」という意味です。
- ・お腹を意識し、タンギングはせず、短く弾むような息でお腹が弾けるように吹いてみましょう。
- ・できるだけ短く大きく響かせて練習してみましょう。



※他の音でも練習しましょう

■ ビブラート

- ・音の揺らすためには、息の量の変化を利用してみましょう。
- ・譜例をゆっくりから、打楽器のリズム練習のようにアクセントをつけるイメージで練習してみましょう。
- ・四分音符 80位で演奏できたら曲に応用してみましょう



※他の音でも練習しましょう